

札幌市就学前児童のいる世帯を対象とした ニーズ等調査 報告書(概要版)

1. 調査の目的

札幌市では子ども・子育て支援法に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」を包含する「第4次さっぽろ子ども未来プラン」(計画期間:令和2年度～令和6年度)に基づき、教育・保育サービスの拡充を進めている。

この度、「第4次さっぽろ子ども未来プラン」の計画期間が終了する令和6年度(2024年度)以降のプランの策定に当たり、市民の教育・保育ニーズと札幌市における子育て支援の課題を抽出し、同プランの改定に向けた基礎データを収集することを目的として本調査を実施した。

2. 調査の実施内容

(1) 就学前児童のいる世帯を対象としたニーズ調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、就学前児童(5歳以下)の保護者15,000人
調査手法	郵送アンケート調査(郵送発送、回収)。ウェブアンケートフォームによる回答も可。
調査期間	令和5年12月11日～令和6年1月5日
回収状況	5,394件(回収率36.0%)

(2) グループヒアリング

項目	内容
対象者	①保護者:ニーズ調査にて参加を希望した25名 ②子育て支援者:保育士5名、幼稚園教諭4名、児童会館スタッフ2名、民間児童育成会関係者1名、子育て支援団体関係者3名
実施方法	グループワーク(3～5名にインタビュアー1名配置)
実施日時	①保護者:令和6年2月10日、11日 ②子育て支援者:令和6年2月17日

目 次

1. 子どもを取り巻く世帯の状況

- (1) 世帯の状況……………p. 1
- (2) 子育ての主な担い手……………p. 2
- (3) 保護者の就労状況……………p. 3
- (4) 親が子どもと過ごす時間…………… p. 4
- (5) 子どもをみてもらえる親族・知人…p. 5
- (6) 育児休業取得状況……………p. 6
- (7) 育児休業を取得しなかった理由… p. 7

2. 子育てに対する保護者の意識

- (1) 子育ての楽しさと大変さ…………… p. 8
- (2) 子育ての悩み……………p. 9
- (3) 仕事と子育ての両立の調和……………p.10
- (4) 子育てに関する悩みの相談先……………p.11
- (5) 子育てに関する情報の入手先……………p.12

3. 子育てに対する保護者のニーズ

- (1) 平日の定期的な預け先……………p.13
- (2) 教育・保育事業の利用にあたって
重視すること……………p.14
- (3) 土曜、日曜・祝日の定期的な預け先…p.15
- (4) 病気やケガが発生したときの対応…p.16
- (5) 不定期の教育・保育事業、宿泊を
伴う一時預かり等の利用…………… p.17
- (6) 小学校就学後の放課後の過ごし方…p.18
- (7) 妊娠中から出産後までに特に重要な
サポート……………p.19
- (8) 子育て支援施策に関する意見・要望…p.20
- (9) その他自由意見 ……………p.21

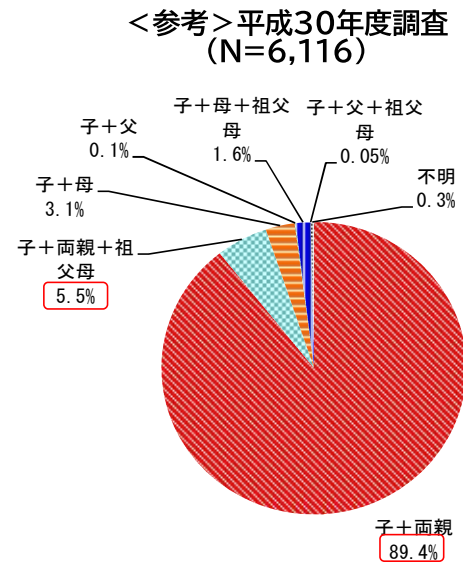
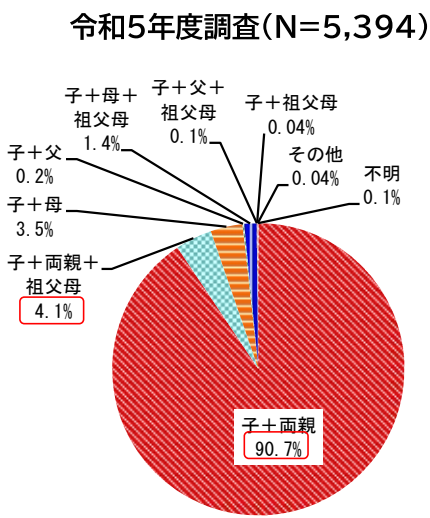
4. ニーズ調査のまとめと方向性 ……p.22～24

1. 子どもを取り巻く世帯の状況

(1) 世帯の状況(問6・8関係)

①世帯構成

- ・「子+両親」の二世世代家庭が90.7%で、「子+両親(父のみ・母のみを含む)+祖父母」の三世世代家庭は4.1%。
- ・平成30年度調査と比べると、二世世代家庭の割合が1.3%増、三世世代家庭が1.4%減。



②世帯年収

- ・二世世代世帯・三世世代世帯ともに「500万円以上700万円未満」が最も多い。
- ・ひとり親世帯については、「200万円未満」が最も多い。

世帯年収について(世帯構成ごとの内訳)

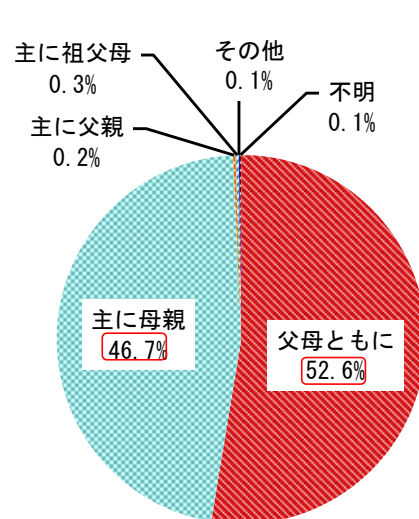
	N	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満	200万円未満
全体	5,394	3.0	3.8	8.7	12.2	28.3	25.4	10.7	6.8	1.0
問6 世帯構成										
お子さん+ご両親(二世世代世帯)	4,890	1.0	3.0	8.4	12.3	29.6	27.0	11.2	6.4	1.0
お子さん+ご両親+祖父母(三世世代世帯)	219	0.5	5.5	10.0	19.2	26.5	17.4	9.1	11.0	0.9
お子さん+母/父親(ひとり親・二世世代世帯)	200	42.0	17.0	12.5	5.0	6.0	4.5	4.0	9.0	-
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世世代世帯)	78	32.1	11.5	16.7	10.3	10.3	2.6	2.6	12.8	1.3

1. 子どもを取り巻く世帯の状況

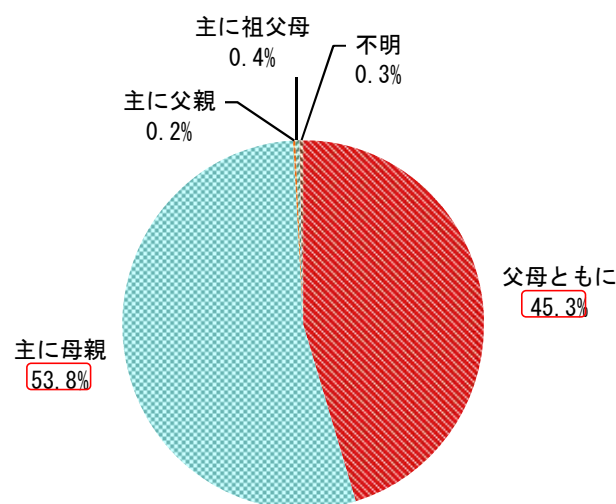
(2) 子育ての主な担い手(問7関係)

- ・「父母ともに」が52.6%、「主に母親」が46.7%。
- ・平成30年度調査と比べて、父母がともに子育てを担っている割合が増加
(平成30年:45.3%、令和5年:52.6%)

令和5年度調査(N=5,394)



<参考>平成30年度調査(N=6,116)



《参考》子育て支援者グループヒアリングより

Q. 最近の父親は積極的に子育てに関わっていると思うか。どうすれば積極的に関わるようになるか。

○全体的に「昔に比べ関わっていると思う」との回答が多かった。

○また、「関わっている人」と「関わっていない人」の差が大きい、「子どもの送迎や行事参加など積極的に関わっている人」がいる一方で、子育てに一切関わらない(関心がない)人もいた」といった意見も出た。

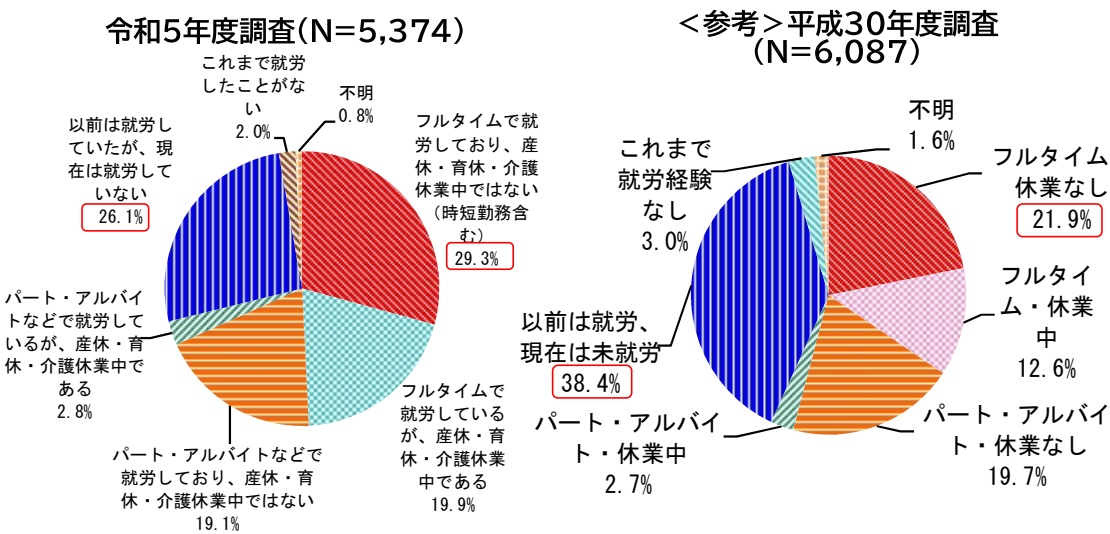
○積極的に関わるようになるためには、「性別役割分業意識を取り除く」「子育てに対する意識を変える」等の意見が見受けられた。そのためには、「母親の実情を知る」「子育てに関わっている父親の話を聞く」等の情報発信、「行事等に参加する」等の体験の場の創出、などが挙げられた。

1. 子どもを取り巻く世帯の状況

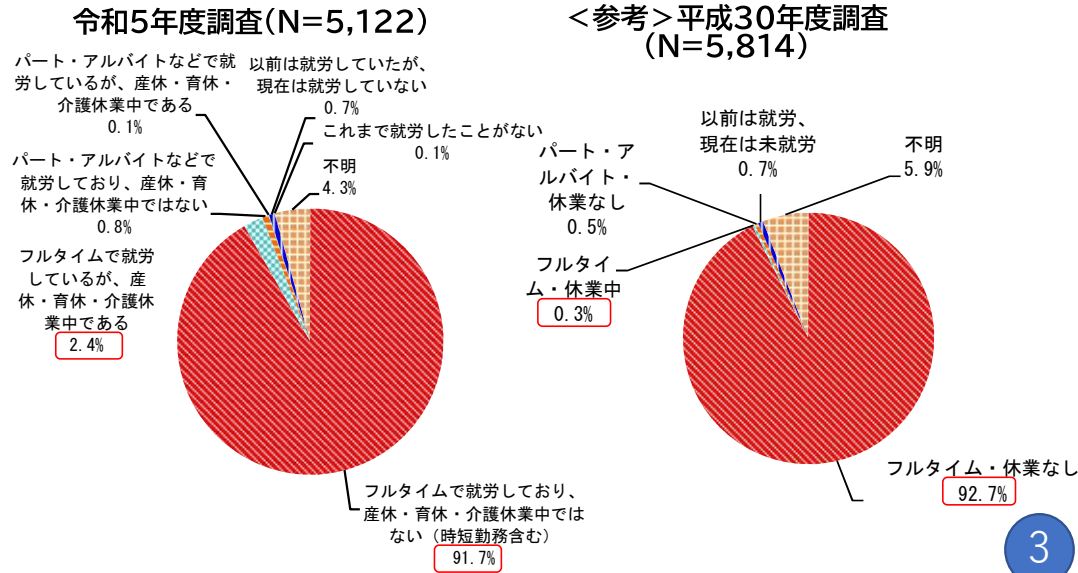
(3) 保護者の就労状況(問18・問19関係)

- ・母親の現在の就労状況について、「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が29.3%で最も多く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が26.1%となっている。
- ・母親がフルタイム、パート・アルバイトなどで就労(休業中を含む)している割合は14.2%の増加。
(平成30年:56.9%、令和5年:71.1%)
- ・父親の現在の就労状況について、「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が91.7%となっており、休業中も含めたフルタイムの割合は、母親に比べ父親が高くなっている。(父親:94.1%、母親49.2%)

①母親の就労状況



②父親の就労状況

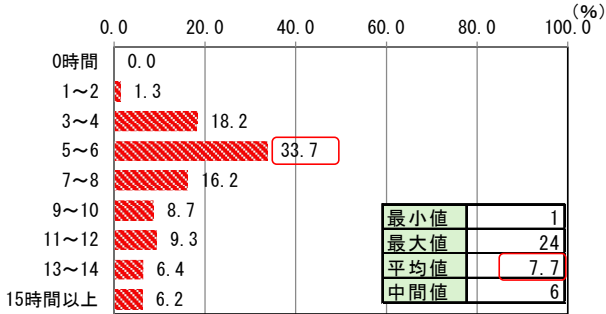


1. 子どもを取り巻く世帯の状況

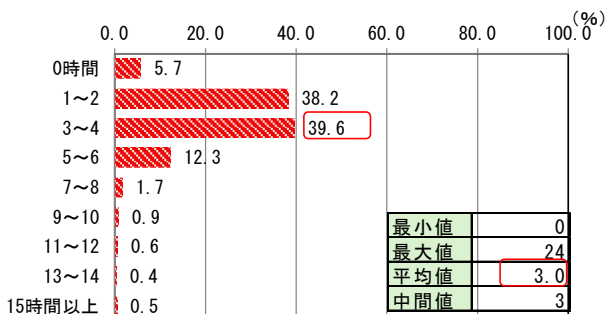
(4) 親が子どもと過ごす時間(問9関係)

- ・就労中の親が平日に子どもと過ごす時間については、母親は「5～6時間」が33.7%と最も多いのに対し、父親は「3～4時間」が39.6%と最も多くなっており、母親は働きながらも育児の多くを担っていることが推測される。
- ・父母が子どもと過ごす時間を比較すると、母親が子どもと過ごす時間が父親に比べ平均5.7時間多く、依然として子育ての担い手は母親となっている現状がうかがえる。
(父親平均:3.0時間、母親平均:8.7時間)

就労中の母親が子どもと過ごす時間(N=3,797)



就労中の父親が子どもと過ごす時間(N=4,777)

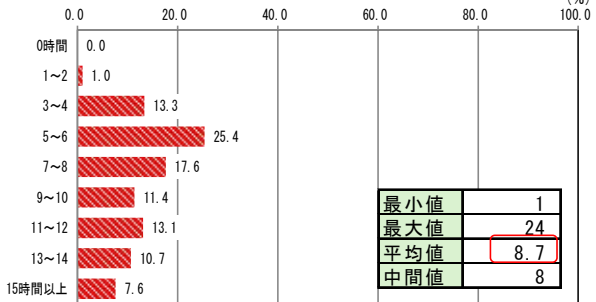


《参考》保護者グループヒアリングより

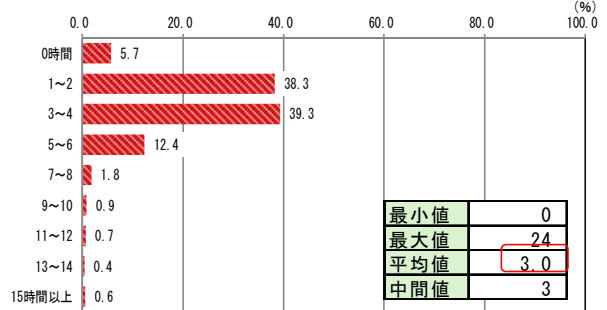
Q. どうすれば/どういう働きかけがあれば、父親は今より積極的に子育てに関わるようになるか。

- 母親の参加者からは「社会・職場の理解」「時短勤務や育休の更なる普及」が多く挙げられた。一方で、育休取得や時短勤務により「残業や減給等が発生しないようにしてほしい」との意見も挙げられた。
- 母親の参加者から配偶者に対しては、「子育ての意識付けを」「一緒に作業する」などの意見が見受けられた。
- 父親の参加者からも「職場の理解」「育休取得を評価に加える」など、職場における意識・精度の変革に着目する意見が見受けられた。

母親が子どもと過ごす時間(全体)(N=5,338)



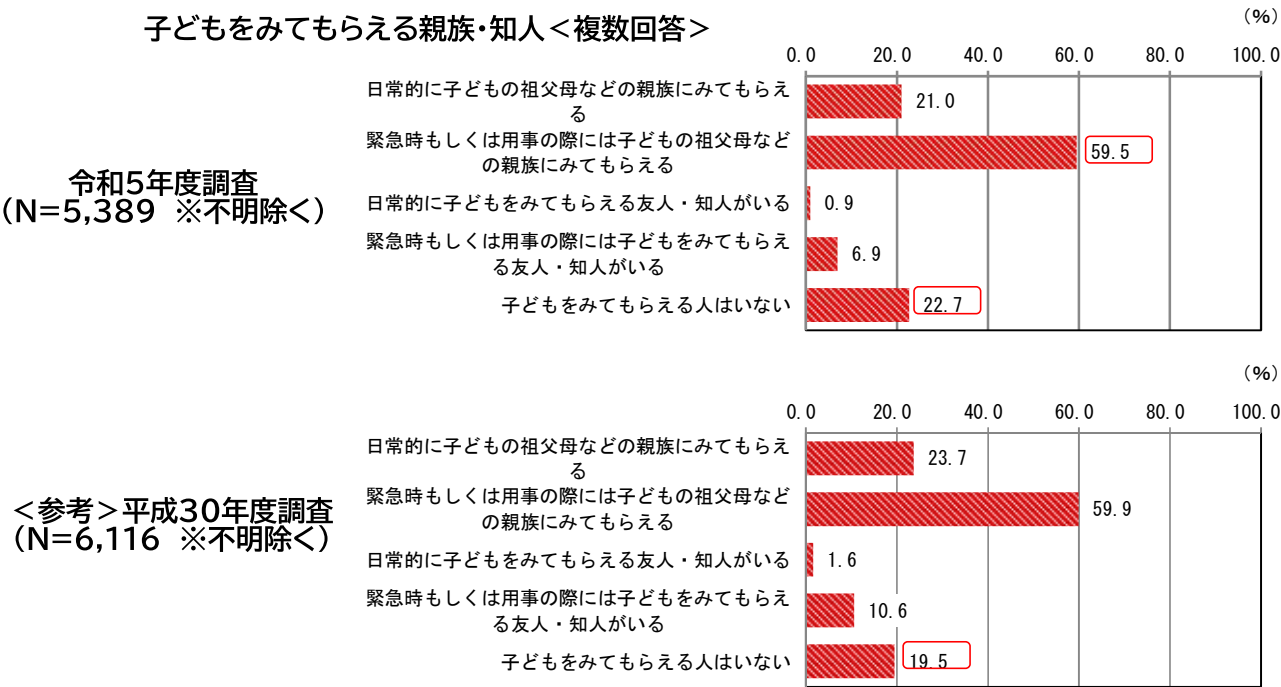
父親が子どもと過ごす時間(全体)(N=5,022)



1. 子どもを取り巻く世帯の状況

(5) 子どもをみてもらえる親族・知人(問10関係)

- ・「緊急時もしくは用事の際には子どもの祖父母などの親族にみてもらえる」が59.5%と最も多く、次いで、「子どもをみてもらえる人はいない」が22.7%であった。
- ・「子どもをみてもらえる人はいない」と答えた割合が、平成30年度から令和5年度にかけて増加。
(平成30年:19.5%、令和5年:22.7%)



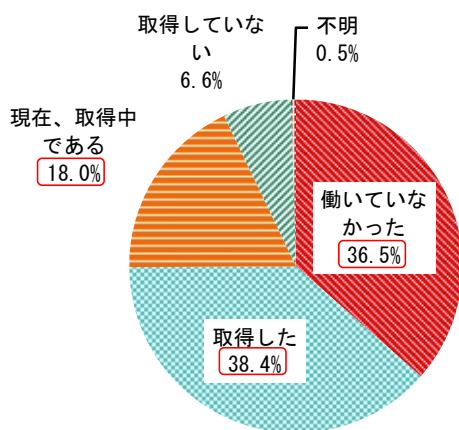
1. 子どもを取り巻く世帯の状況

(6) 育児休業取得状況(問34関係)

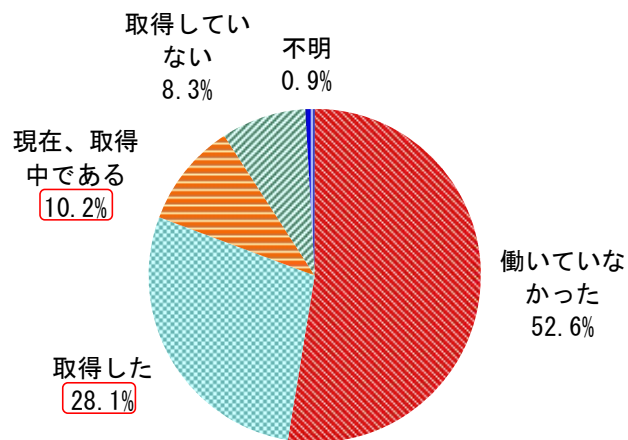
- ・母親の育児休業の取得状況は、「育児休業を取得した」が38.4%と最も多く、次いで「働いていなかった」が36.5%、「現在、取得中である」が18.0%であった。
- ・平成30年度調査の結果に比べ、母親が「育児休業を取った、あるいは今取っている」は増加。(平成30年:38.3%、令和5年:56.4%)
- ・父親の育児休業の取得状況は、「取得していない」が78.3%で最も多いが、平成30年度調査と比較すると、父親が「育児休業を取った、あるいは今取っている」は15.3%増加している。(平成30年:4.3%、令和5:19.6%)

①母親の取得状況

令和5年度調査(N=5,374)

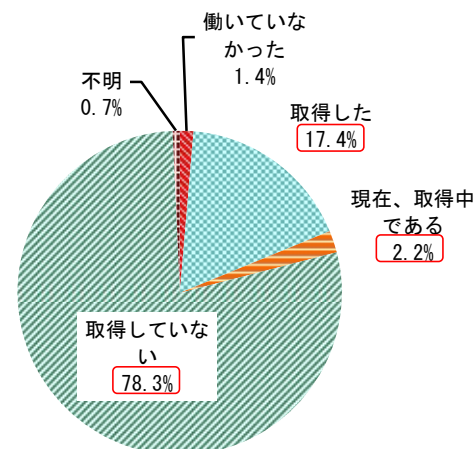


<参考>平成30年度調査(N=6,116)

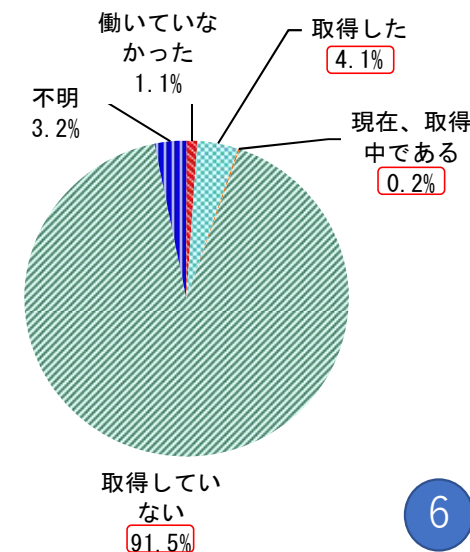


②父親の取得状況

令和5年度調査(N=5,122)



<参考>平成30年度調査(N=6,116)

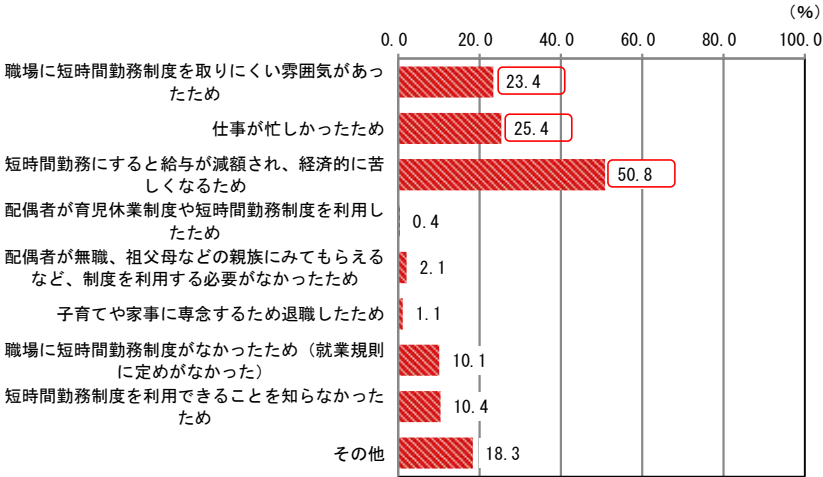


1. 子どもを取り巻く世帯の状況

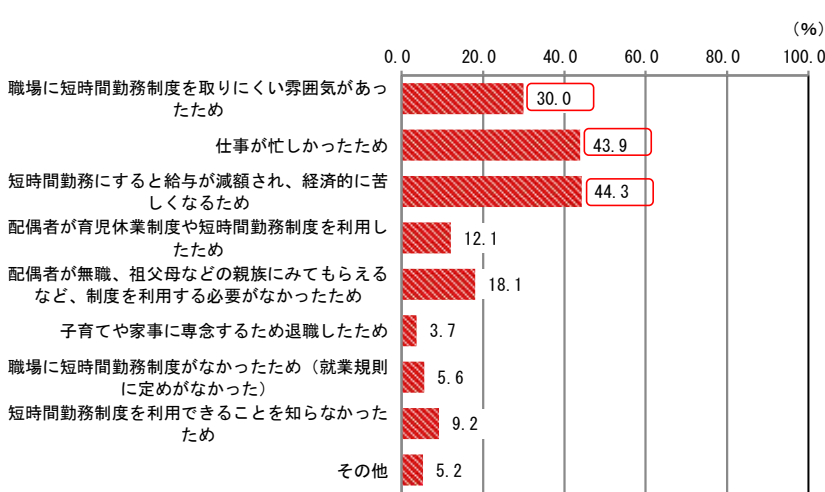
(7) 短時間勤務制度を利用しなかった理由(問34-7関係)

・育休からの復帰後、短時間勤務制度を利用しなかった母親及び父親にその理由を聞いたところ、第1に「給与が減額され、経済的に苦しくなるため」(母親:50.8%、父親:44.3%)、第2に「仕事が忙しかったため」(母親:25.4%、父親:43.9%)、第3に「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があったため」(母親:23.4%、父親30.0%)と、同様の順となっている。

①短時間勤務制度を利用しなかった理由(母親)
＜複数回答＞(N=710 ※不明除く)



②短時間勤務制度を利用しなかった理由(父親)
＜複数回答＞(N=784 ※不明除く)



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 自分や配偶者が働いている会社は子育てしやすいか。何が子育てしやすい／しにくいにつながっているか。

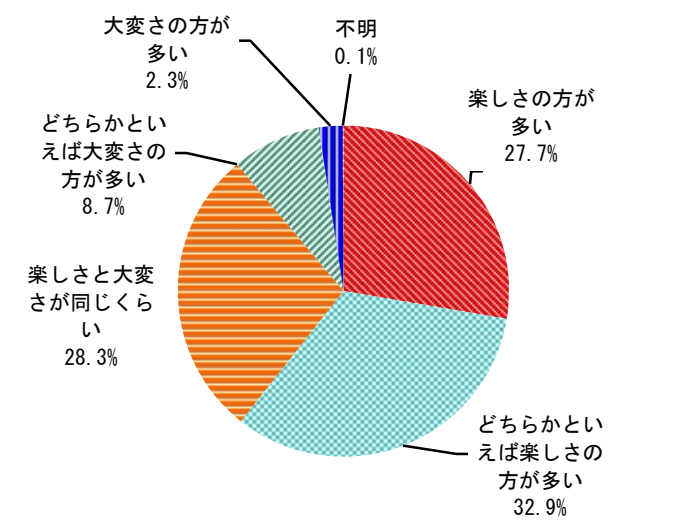
○女性に対しては育休や子育てに対する職場の理解があり「子育てしやすい」との意見が多かったが、男性に対しては「業務量が多く休めない」「男性職員は育児休暇を取得しにくい」「職場の無理解」など、子育てに参加しにくい状況が見受けられた。
○子育てしにくい点として「仕事を代わってくれる人が居らず休めない」「残業が多く子育てに参加できない」といった業務量・人員に関する意見や、「上司が休まない人」「上司の理解度が低い」など、子育てに対する理解度が低いことなどが挙げられた。

2. 子育てに対する保護者の意識

(1) 子育ての楽しさと大変さ(問13関係)

- ・「楽しさの方が多い」、「どちらかといえば楽しさの方が多い」と答えた人は計60.6%であった。一方、「どちらかといえば大変さの方が多い」、「大変さの方が多い」と答えた人は計11.0%であった。
- ・世帯構成ごとの内訳では、「ひとり親世帯(子+母/父親)」のみが「楽しさと大変さが同じくらい」が最も多く、祖父母と同居する三世帯世帯はいずれも「楽しさの方が多い」が最も多く、「二世帯世帯(子+両親)」では「どちらかといえば楽しさの方が多い」が最も多い結果となった。
- ・「子どもをみてもらえる親族・知人の有無」別では、「子どもをみてもらえる人はいない」世帯は他の世帯と比べ、子育てを大変だと思う割合が高くなっている。

子育てに楽しさと大変さ、どちらを感じる人が多いか
(N=5,394)



子育ての楽しさと大変さについて(世帯構成ごと・子どもをみてもらえる親族等の有無ごとの内訳)

	N	楽しさの方が多い	どちらかといえば楽しさの方が多い	楽しさと大変さが同じくらい	どちらかといえば大変さの方が多い	大変さの方が多い	不明
全体	5,394	27.7	32.9	28.3	8.7	2.3	0.1
問6 世帯構成							
お子さん+ご両親(二世帯世帯)	4,890	27.7	33.5	27.8	8.7	2.2	0.1
お子さん+ご両親+祖父母(三世帯世帯)	219	31.5	27.9	30.6	7.8	2.3	0.0
お子さん+母/父親(ひとり親・二世帯世帯)	200	19.0	28.5	36.0	10.0	5.0	0.0
お子さん+母/父親+祖父母(ひとり親・三世帯世帯)	78	37.2	24.4	32.1	5.1	1.3	0.0
問10 子どもを預けることができる親族・知人							
日常的に子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	1,134	35.6	32.4	25.0	5.0	1.9	0.1
緊急時もしくは用事の際には子どもの祖父母などの親族にみてもらえる	3,206	27.6	34.1	28.2	8.3	1.8	0.0
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	49	51.0	20.4	26.5	2.0	0.0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	373	37.0	33.5	23.9	4.6	1.1	0.0
子どもをみてもらえる人はいない	1,222	21.5	31.1	31.1	12.3	3.7	0.3

※色付きは各行について濃い順に1・2・3番めに高い値であることを示している。

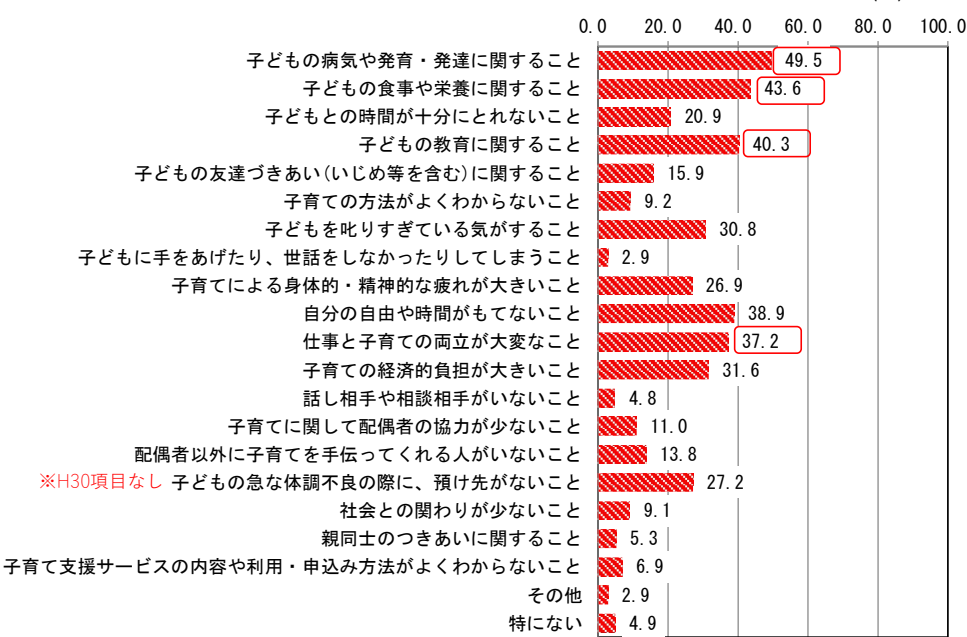
2. 子育てに対する保護者の意識

(2) 子育ての悩み(問14(1)関係)

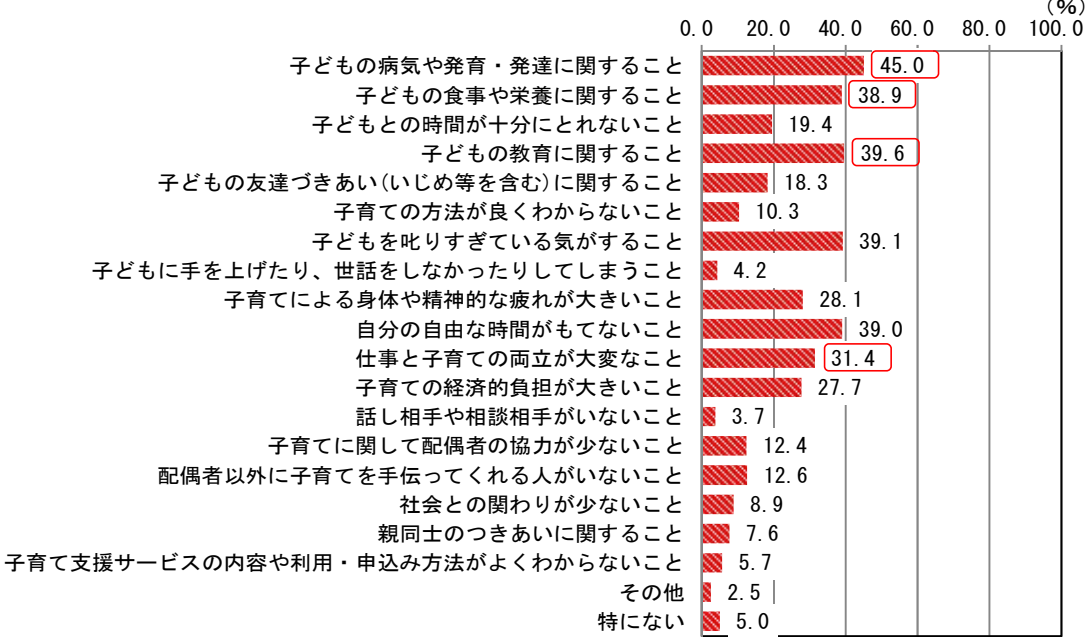
・「子どもの病気や発育・発達に関すること」(平成30年:45.0%⇒令和5年:49.5%)が最も多く、次いで、「子どもの食事や栄養に関すること」(平成30年:38.9%⇒令和5年:43.6%)、「子どもの教育に関すること」(平成30年:39.6%⇒令和5年:40.3%)が続いており、いずれの数値も平成30年度調査より増加している。

・「仕事と子育ての両立が大変なこと」(平成30年:31.4%⇒令和5年:37.2%)の伸び率が高い。

令和5年度調査＜複数回答＞（N=5,381 ※不明除く）



＜参考＞平成30年度調査＜複数回答＞（N=6,065 ※不明除く）

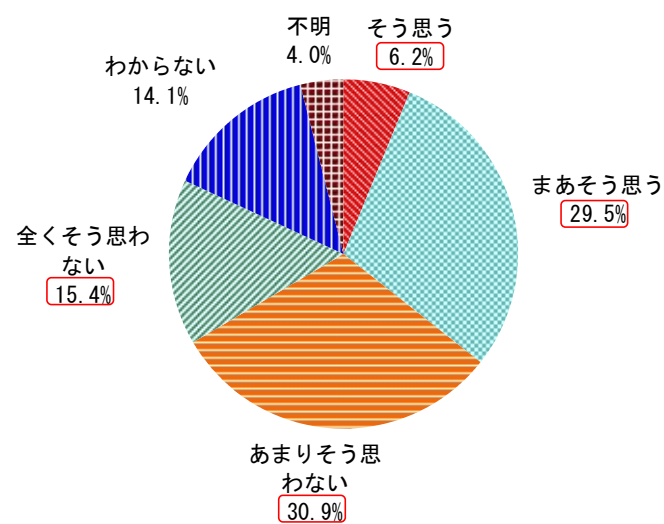


2. 子育てに対する保護者の意識

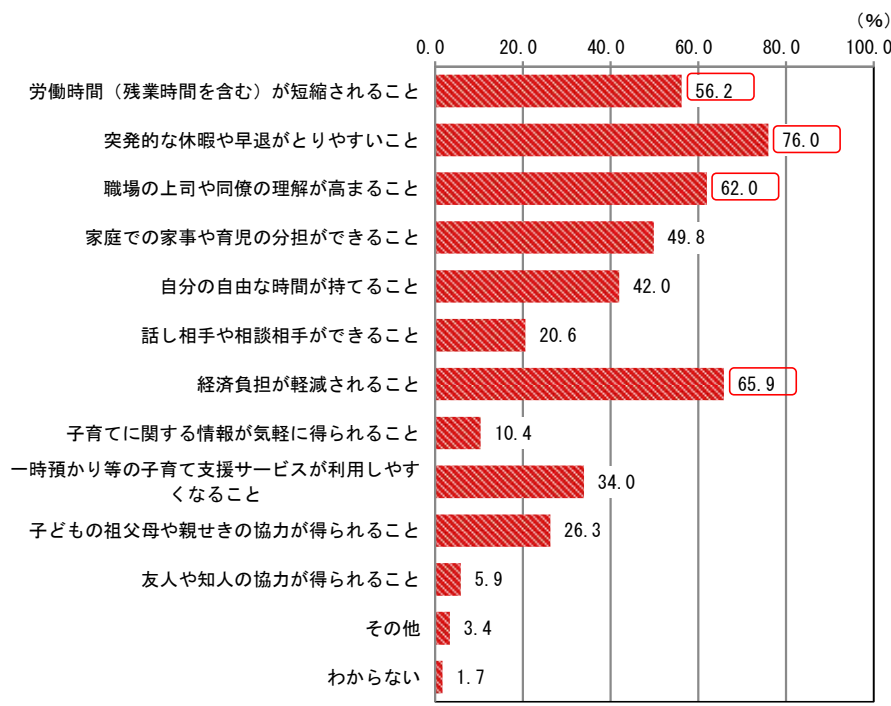
(3) 仕事と子育ての両立の調和(問35、36関係)

- ・仕事と子育ての調和がとれていると思う回答者は35.7%、調和がとれていると思わない回答者は46.3%となっており、「調和がとれていると思わない」が上回っている。
- ・「どうしたら仕事と子育ての調和が取れるようになると思うか」との問に対しては「突発的な休暇や早退がとりやすいこと」(76.0%)、「経済負担が軽減されること」(65.9%)、「職場の上司や同僚の理解が高まること」(62.0%)、「労働時間(残業時間を含む)が短縮されること」(56.2%)を半数以上の人が挙げている。

仕事と子育ての両立の調和がとれていると思うか(N=5,394)



どうしたら調和がとれるようになると思うか<複数回答> (N=5,628 ※不明除く)

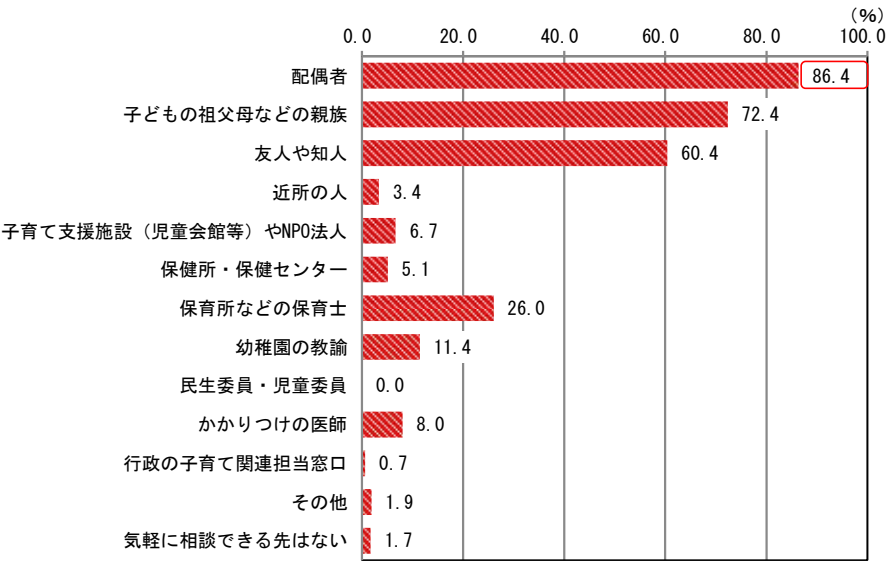


2. 子育てに対する保護者の意識

(4) 子育てに関する悩みの相談先(問11関係)

- ・「配偶者」が86.4%と最も多く、次いで、「子どもの祖父母などの親族」72.4%、「友人や知人」60.4%、「保育所などの保育士」26.0%、「幼稚園の教諭」11.4%が続いている。
- ・グループヒアリングからは、「子どもの預け先」や「悩みの相談先」について、多様な意見が出された。

令和5年度調査＜複数回答＞(N=5,390 ※不明除く)



その他
○児童デイサービスの職員等(49)
○助産院、助産師、看護師、保健師(18)
○SNS、オンラインコミュニティ(13)
○ネット上のサービス、アプリ(3)
○職場の人(2)など

《参考》保護者グループヒアリングより

Q. どのような時に子育てをしていて大変なこと、困ったことがあったか。

○「子どもの預け先がない」「子どもの発育・しつけ」「自分の時間が持てない」「経済的な負担」「悩みの相談先がない」などが挙げられた。「子どもの預け先がない」では「仕事」「(自身や子どもの)通院」時に、「子どもの発育・しつけ」では「自分に余裕がない時」「周りに知り合いがいなかったため相談できない」時に、「自分の時間が持てない」では「育児に時間を取られ、これまでの過ごし方ができない」時に、感じたとの意見が挙げられた。

Q. 何があれば／どうすれば解消できるか。

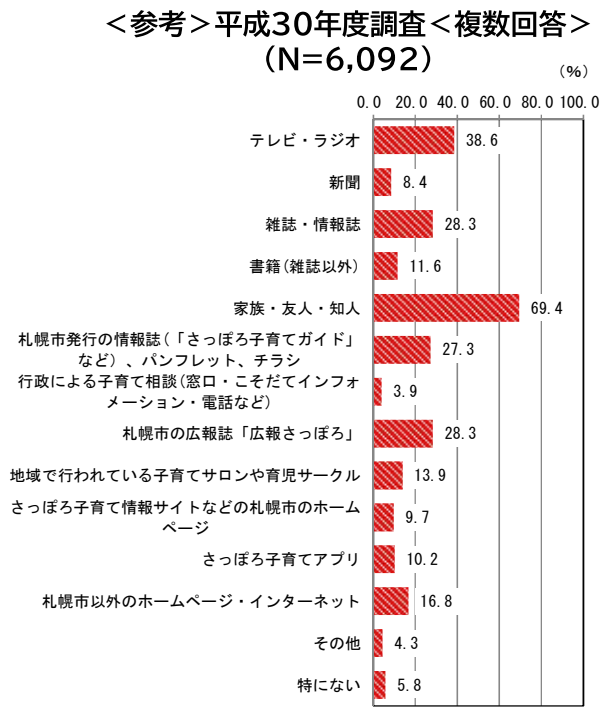
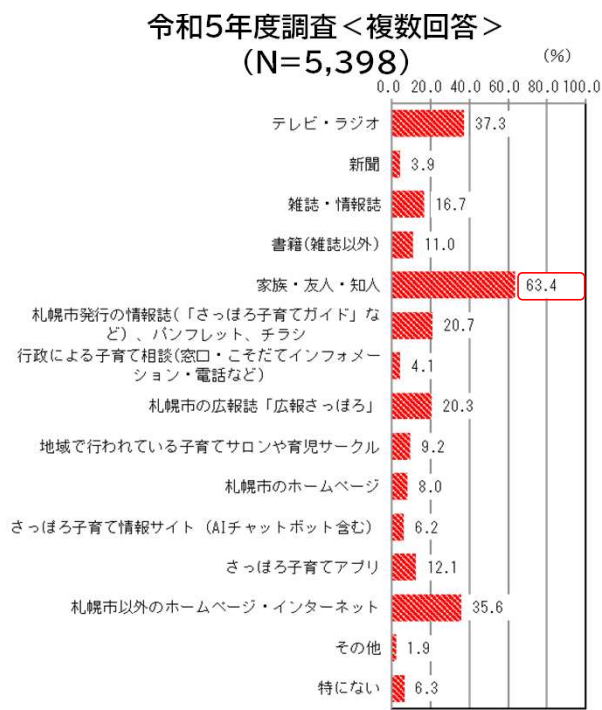
○「子どもの預け先がない」「自分の時間が持てない」に関しては、「一時預かりが気軽に使えるようになってほしい」「短時間(30～60分程度)でも預かってくれる場所があるといい」「仕事や自分が体調不良の時に助けてくれる・預かってくれる人や場所」などが挙げられた。

○「子どもの発育・しつけ」「悩みの相談先」については「自分に寄り添ってくれる相談先」「シングルマザーの集い」「同世代や先輩パパママから経験を聞く場」など、同じ境遇の人や経験者と意見交換などができる場が挙げられた。

2. 子育てに対する保護者の意識

(5) 子育てに関する情報の入手先(問12関係)

- ・「家族・友人・知人」が63.4%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」37.3%、「札幌市以外のホームページ・インターネット」35.6%が続いている。
- ・平成30年度調査の結果と比較すると、「雑誌・情報誌」、「札幌市発行の情報誌」、「広報さっぽろ」が減少する一方、「札幌市以外のホームページ・インターネット」(平成30年:16.8%⇒令和5年:35.6%)が増加したほか、「さっぽろ子育てアプリ」が12.1%の回答があり、インターネット関係からの情報収集が増加している。



《参考》保護者グループヒアリングより

- Q. どのような情報が最もほしいか。
- 「子どもの症例判断」「子どもを連れていく病院(休日・夜間等)」など、『子どもが病気になった時に必要な情報』や、「子育て」に関する『疑問の解消や悩みを相談する場所』の情報、「公園」「イベント情報」など『子どもが遊べる場所』についての意見が多く挙げられた。
- Q. 子育ての情報はこういった機会、場所、どのような媒体だと入手しやすいか。
- 「アプリ」「SNS」「子育て公式LINE」など、スマートフォンなどで手軽に情報を得られるようにしてほしいとの意見が挙げられた。
- 「SNS」については「フォローさえしたら自然と情報が目に入る」「イベント情報やクーポンを配信」など、プッシュ型の媒体が求められている。
- 一方、「ダイレクトメール」「チラシ」といった紙媒体を希望する意見も多く、「郵送での提供」を希望する声が一定数あった。また、配布場所としては「保育園」を希望する声が多かった。
- 「アプリがあることも知らなかった」との意見もあった。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

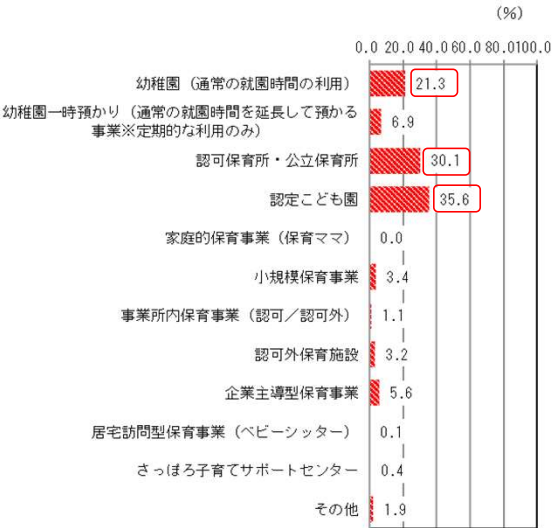
(1) 平日の定期的な預け先(問20・問21関係)

- ・「年間を通じて定期的に利用している教育・保育事業」については、「認定こども園」が35.6%と最も多く、次いで「認可保育所・公立保育所」が30.1%、「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が21.3%と続いている。
- ・平成30年度調査の結果と比較すると、「幼稚園(通常の就園時間の利用)」と「認可保育所・公立保育所」が減少する一方、「認定こども園」が大きく増加(平成30年:16.4%、令和5年:35.6%)。
- ・「定期的に利用したい教育・保育事業」を聞いたところ、認定こども園、認可保育所・公立保育所・幼稚園の順で希望するニーズが高く、平日の定期的な「教育・保育事業」を利用している理由として「子育てをしている方が現在就労している」が75.4%と最も多いことから、就労を理由に教育保育施設において預かるニーズがうかがえる。

定期的に利用している教育・保育事業<複数回答>

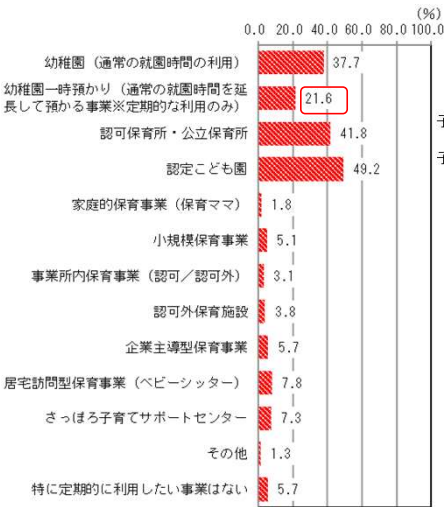
令和5年度調査(N=3,399)

<参考>平成30年度調査(N=3,502)



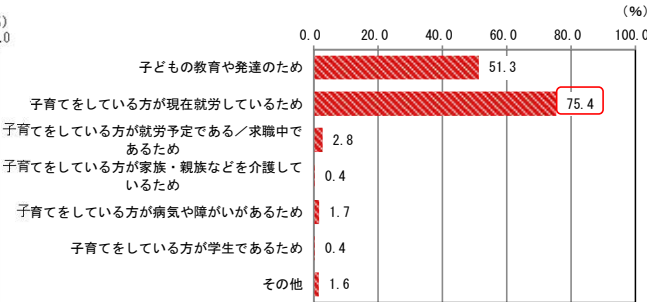
定期的に利用したい教育・保育事業

<複数回答>
令和5年度調査(N=5,362)



教育・保育事業を利用している理由

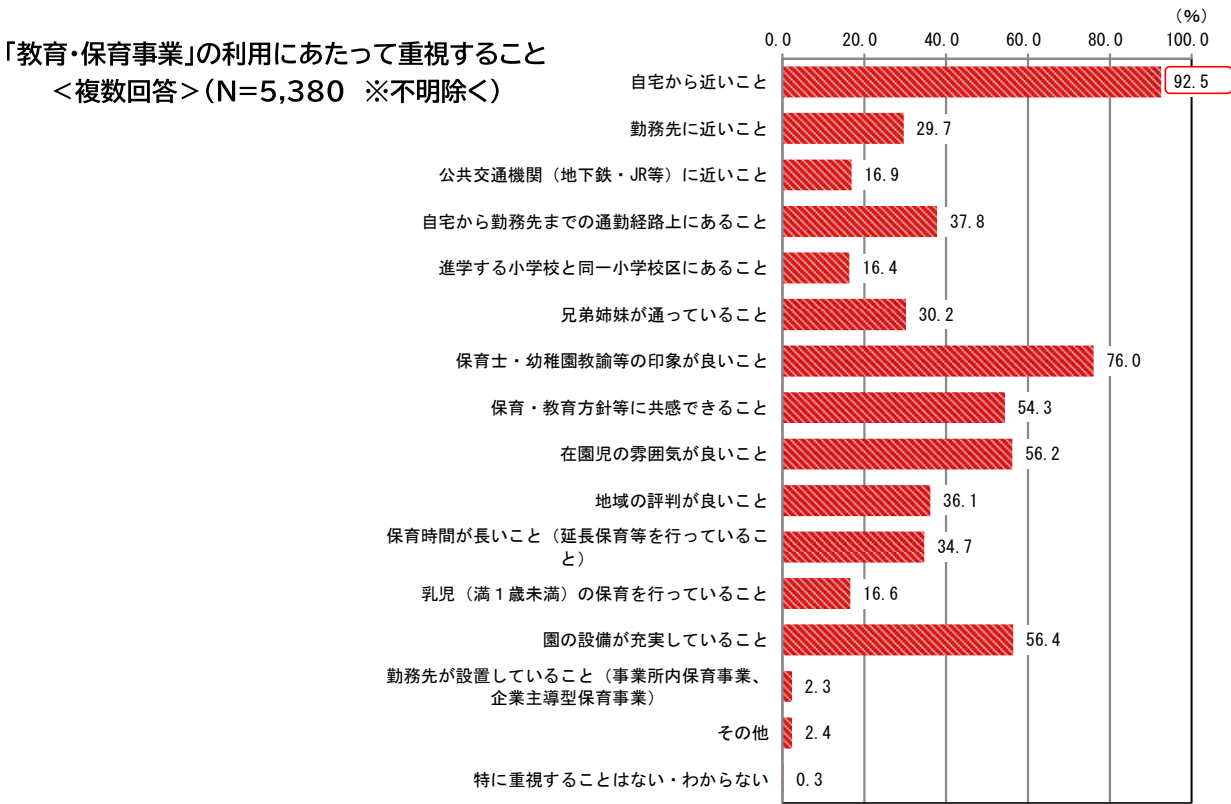
<複数回答>
令和5年度調査(N=3,391)



3. 子育てに対する保護者のニーズ

(2) 教育・保育事業の利用にあたって重視すること(問24関係)

・「自宅から近いこと」が92.5%と最も多かった。次いで、「保育士・幼稚園教諭等の印象が良いこと」76.0%、「園の設備が充実していること」56.4%、「在園児の雰囲気が良いこと」56.2%、「保育・教育方針等に共感できること」54.3%が続いており、これらは半数以上の方が重視すると回答している。



3. 子育てに対する保護者のニーズ

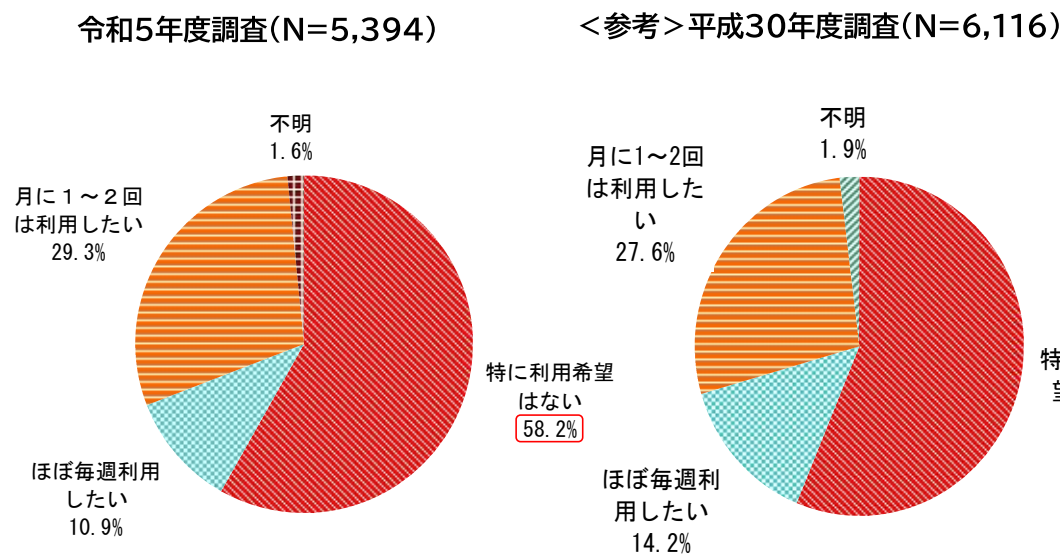
(3) 土曜、日曜・祝日の定期的な預け先(問22関係)

・土曜日の「教育・保育事業」の利用希望については、「特に利用希望ない」が58.2%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」が29.3%となっている。

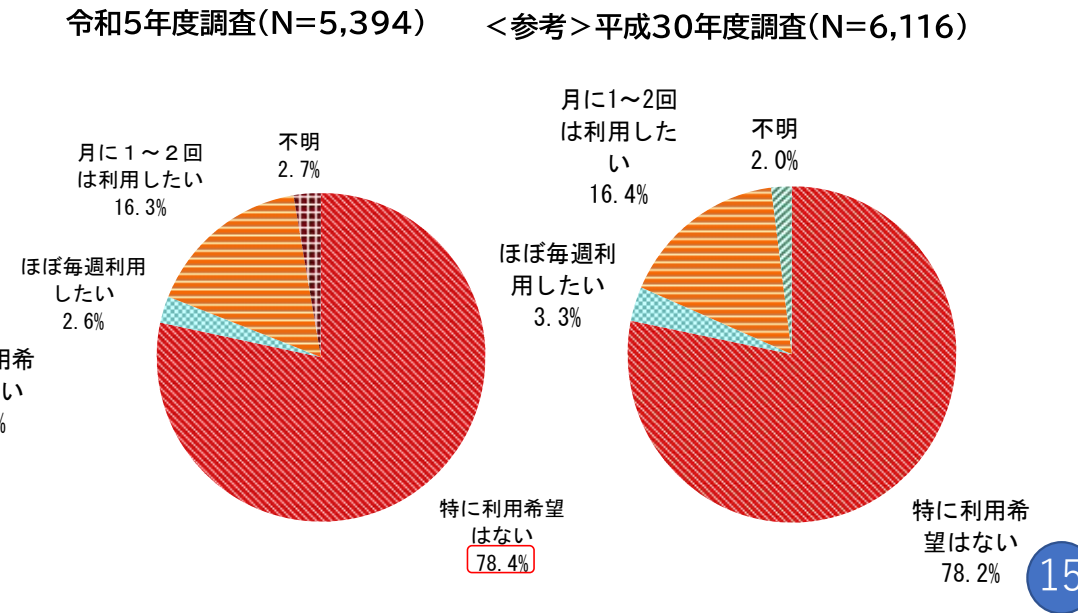
・日曜日・祝日の「教育・保育事業」の利用希望については、「特に利用希望ない」が78.4%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」が16.3%となっている。

・いずれも平成30年度調査とほぼ同様の割合を示している。

①土曜日の利用希望



②日曜日・祝日の利用希望



3. 子育てに対する保護者のニーズ

(4) 病気やケガが発生したときの対応(問25関係)

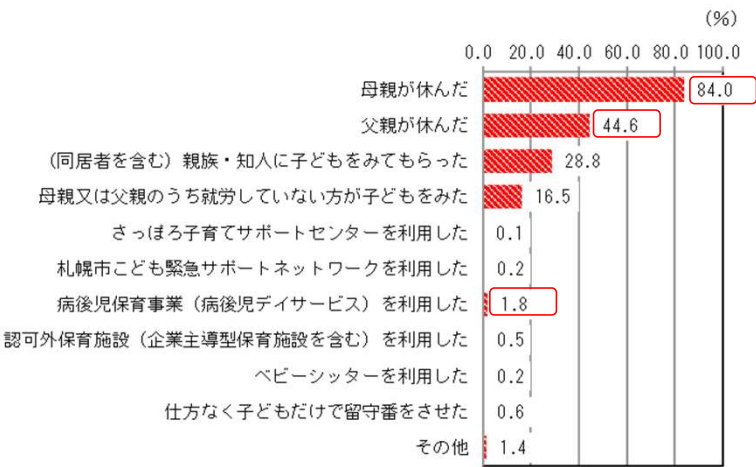
・「教育・保育事業」の利用者で、子どもが病気やケガで預けられなかったときの対応については、「母親が休んだ」が84.0%と最も多く、次いで、「父親が休んだ」44.6%、「親族・知人に見てもらった」28.8%。平成30年度調査の結果と比較すると「父親が休んだ」は17.5%の増加(平成30年:27.1%、令和5年:44.6%)。

・「行政の預かりサービス以外の方法を取った」と回答したうち、「行政の病児・病後児のための預かりサービス」の利用を希望する世帯は36.5%となっていた。その一方で、行政の「病後児保育事業(病後児デイサービス)」を利用した世帯は1.8%と希望と実態のギャップが大きい。

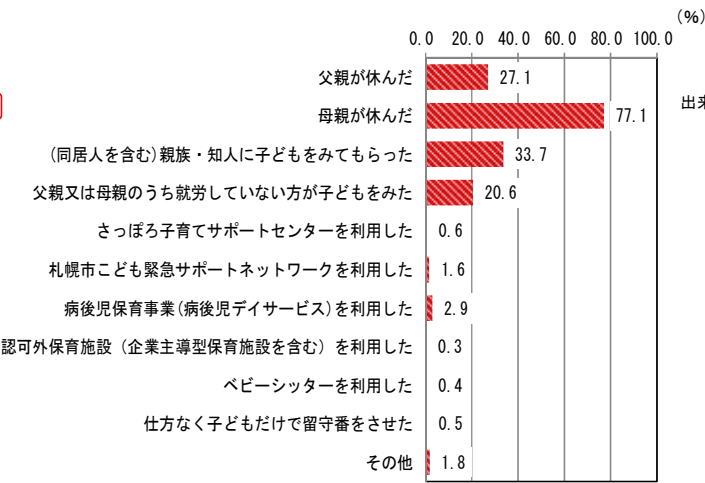
①【子どもが病気やケガで利用できなかったことがあった方】

・どのように対応したか<複数回答>

令和5年度調査(N=2,846)



<参考> 平成30年度調査(N=2,494)

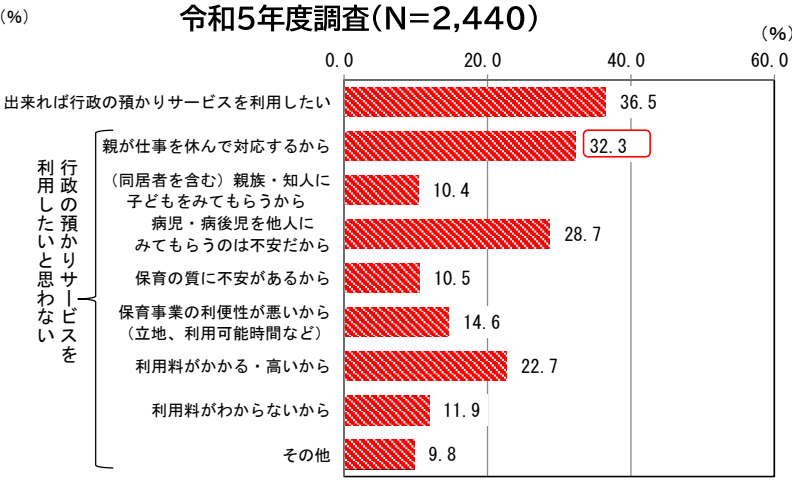


②【父親・母親が休んで対応した方】

・行政の預かりサービスを利用したいか。

利用したいと思わない場合はその理由<複数回答>

令和5年度調査(N=2,440)



3. 子育てに対する保護者のニーズ

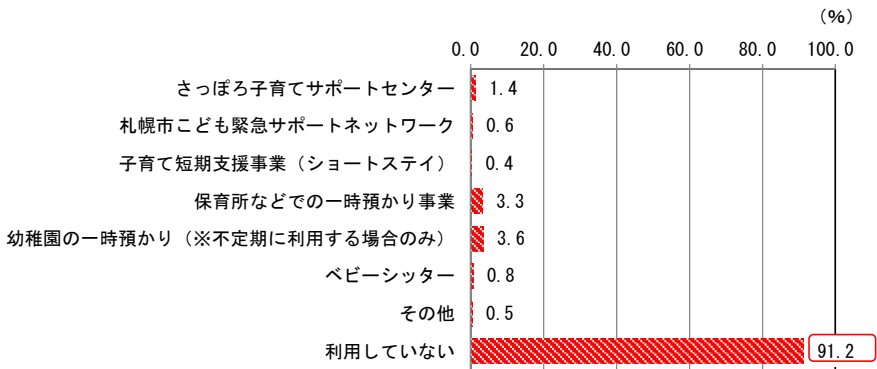
(5) 不定期の教育・保育事業、宿泊を伴う一時預かり等の利用(問26関係)

・「日中、不定期に利用している事業」については、「利用していない」が91.2%と最も多かった。利用している事業としては、「幼稚園の一時預かり」、「保育所などでの一時預かり」が比較的多かった。

・「不定期の教育・保育事業を利用したいか・どのような場合に利用したいか」については、「利用する必要はない」が49.1%と最も多かった。「利用したい」との回答の内訳としては、「私用(買い物、子どもや親の習い事等)、リフレッシュ目的」との回答が38.4%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院、出産、介護等」との回答が32.2%であった。

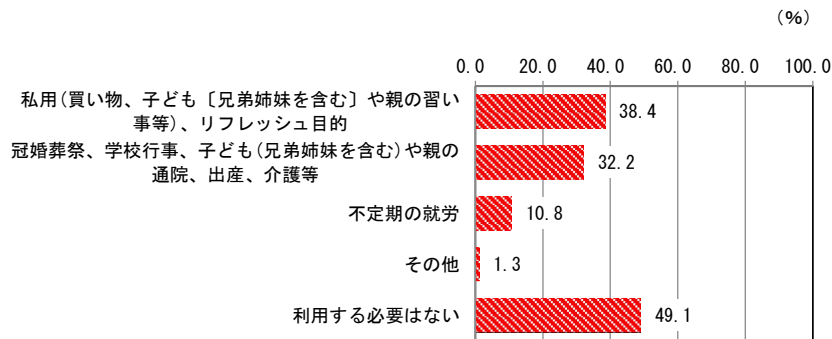
①日中、不定期に利用している事業<複数回答>

令和5年度調査(N=5,289)



②不定期の教育・宿泊事業を利用したいか・ どのような場合に利用したいか.<複数回答>

令和5年度調査(N=5,291)



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 子育てをされていて大変なこと、困ったことは何か。その解消策は何か？

○「一人になりたいくてもなれない。買い物、書店など、子連れでゆっくり見れない。24時間子どもと一緒に、余裕ないとイライラしてしまうことがある。」という意見が出た。解決策として「預かり保育の枠を増やす。図書館・商業施設などでの少ない時間単位の託児サービス。ちょっと預けられる場所。」といった意見が出た。

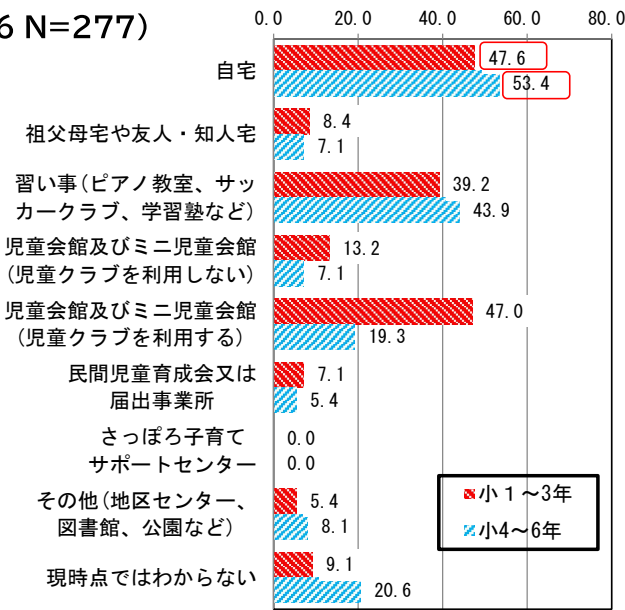
3. 子育てに対する保護者のニーズ

(6) 小学校就学後の放課後の過ごし方(問30関係)

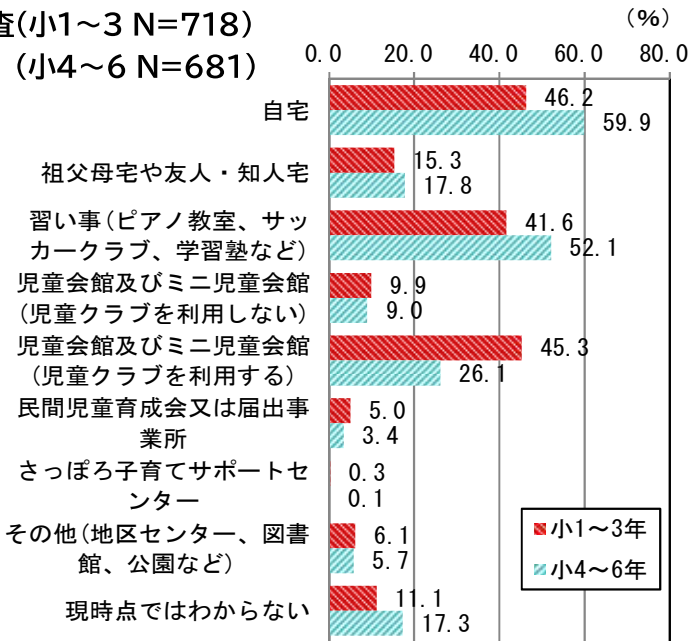
- ・小学校低学年の子どもを持つ保護者は、「放課後をどこで過ごさせたいか」について、「自宅」が47.6%と最も多く、次いで、「児童会館及びミニ児童会館(児童クラブを利用する)」47.0%、「習い事」39.2%が続いている。平成30年度調査の結果と比較すると、「自宅」と「児童会館及びミニ児童会館(児童クラブを利用する)」との回答が増加している。
- ・小学校高学年の子どもを持つ保護者は、「放課後をどこで過ごさせたいか」について、「自宅」が53.4%と最も多く、次いで、「習い事」43.9%、「児童会館及びミニ児童会館(児童クラブを利用する)」19.3%が続いている。

【お子さんが5歳以上の方限定】放課後をどこで過ごさせたいか<複数回答>
(%)

令和5年度調査(小1~3 N=296)
(小4~6 N=277)



<参考>平成30年度調査(小1~3 N=718)
(小4~6 N=681)

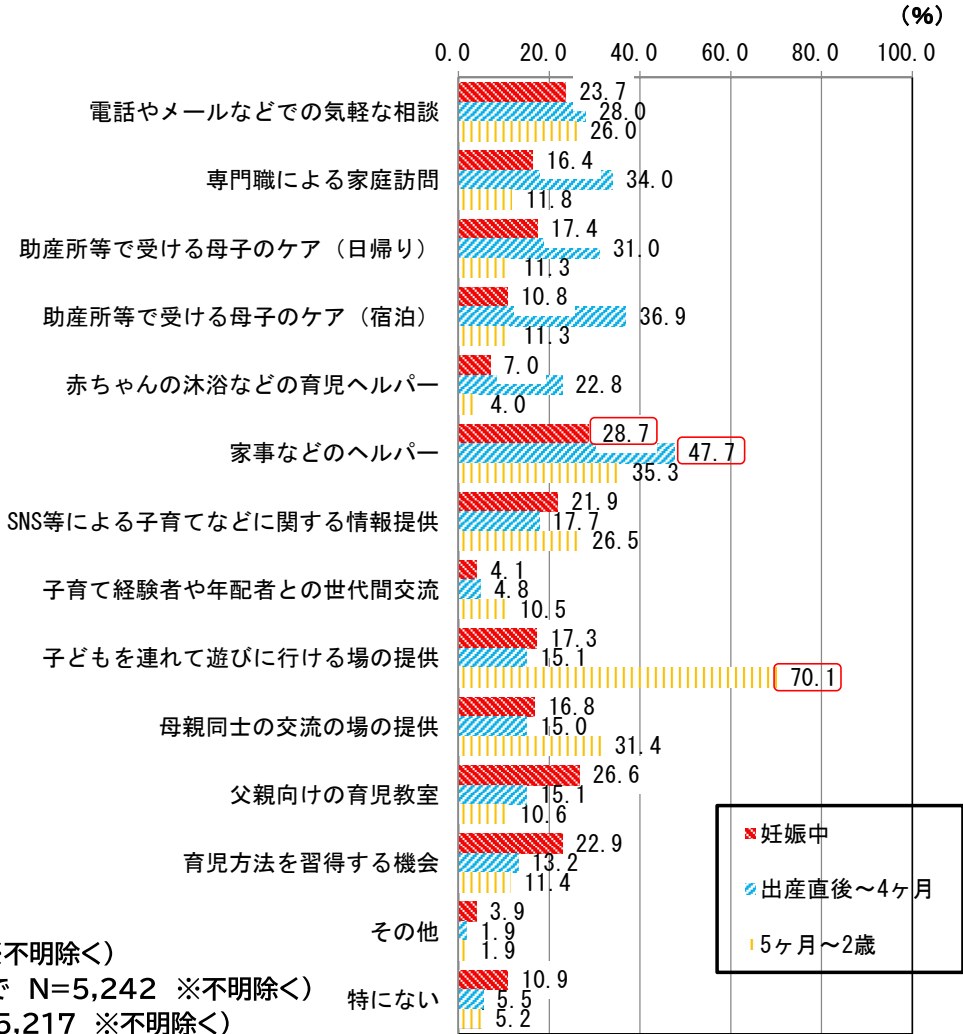


3. 子育てに対する保護者のニーズ

(7) 妊娠中から出産後までに特に重要なサポート(問33関係)

- ・妊娠中に、「特に重要だと思うサポート」については、「家事などのヘルパー」が28.7%と最も多く、次いで、「父親向けの育児教室」26.6%、「電話やメールなどでの気軽な相談」23.7%、「育児方法を習得する機会」22.9%。
- ・出産後から4か月までに、「特に重要だと思うサポート」については、「家事などのヘルパー」が47.7%と最も多く、次いで、「助産等で受ける母子のケア(宿泊)」36.9%、「専門職による家庭訪問」34.0%、「助産等で受ける母子のケア(日帰り)」31.0%。
- ・5か月から2歳までに、「特に重要だと思うサポート」については、「子どもを連れて遊びに行ける場の提供」が70.1%と最も多く、次いで、「家事などのヘルパー」35.3%、「母親同士の交流の場の提供」31.4%、「父親向けの育児教室」26.6%、「SNS等による子育てなどに関する情報提供」26.5%。

<複数回答> (妊娠中 N=2,484 ※不明除く)
 (出産直後から4か月まで N=5,242 ※不明除く)
 (5か月から2歳児 N=5,217 ※不明除く)

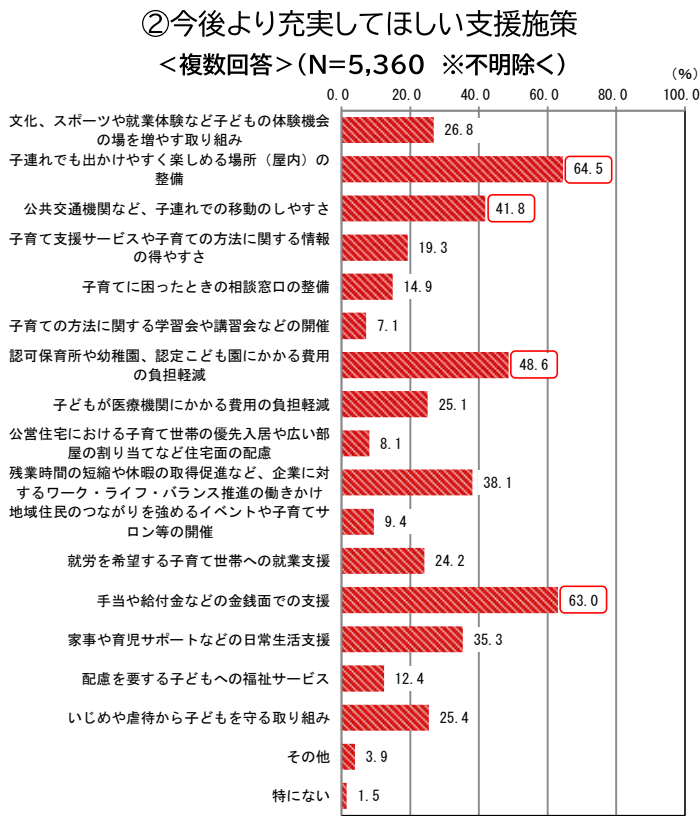
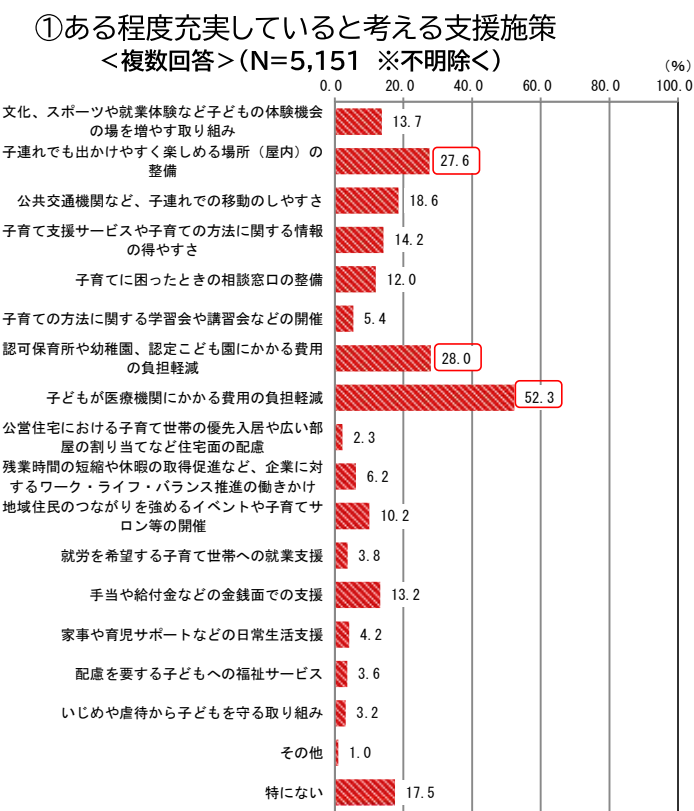


3. 子育てに対する保護者のニーズ

(8) 子育て支援策に関する意見・要望(問15関係)

・「ある程度充実していると考える子育て支援施策」については、「医療機関にかかる費用の負担軽減」が52.3%と最も多く、次いで「認可保育所等にかかる費用軽減」28.0%、「子連れでも出かけやすく楽しめる場(屋内)の整備」27.6%となっている。

・「今後、充実させてほしい子育て支援施策」については、「子連れでも出かけやすく楽しめる場(屋内)の整備」が64.5%と最も多く、次いで、「手当や給付金などの金銭面での支援」63.0%、「認可保育所等にかかる費用負担軽減」48.6%、「公共交通機関など、子連れでの移動のしやすさ」41.8%が続いている。



《参考》保護者グループヒアリングより

Q. 札幌市の子育てに関するサービスや施設で利用するものと改善してほしい点は？

○子育てに関する施設でよく利用するものについては、「子育てサロン」「公園」「動物園」「商業施設にある託児・屋内遊技場」、サービス等については「医療費等の支援」「保健師の家庭訪問」などが挙げられた。

○改善してほしい点として、子どもが遊べる場所についての意見が多く、「図書館に騒げる空間を(子どもが騒いでもOKな絵本コーナーなどの設置)」「安く気軽に遊べる場所」「親同伴でなくても遊べる場所」などが挙げられた。

○また、「(ちょっとした間でいいので)子どもを見てくれる人がいてほしい」「各種サービスの手続きが煩雑なので、利用しやすくしてほしい」などの意見も挙げられた。

3. 子育てに対する保護者のニーズ

(9) その他自由記載(問37関係)

「子育て支援の取組への意見等自由記載」については、「経済的支援」、「保育所・幼稚園に係る費用」、「保育所等の入園の容易化」、「遊び場の整備」、「職場の意識改善」、等の意見が多く寄せられた。

■職場・社会の子育て・意識改善等

・育休延長、それに伴う手当延長が、希望すれば誰でもできるようになってほしい。せめて、子が2歳になるまで。可能なら3歳になるまで。
・子育て世代の仕事での時間的な負担軽減(勤務時間、日数等)を市から積極的に推し進めて欲しい。父親の早出残業は子育て中も変わらず。母親が仕事をセーブしているが、共働きには変わらないのでとても大変。父親が19時に家にいたら最高だと思う。
・休みをとりやすい環境の仕事場が増えてほしい。など

■相談

・産後の家庭訪問は結構負担が大きい。身体測定などがありたく、話を聞いてもらえればいいが、ブワッと必要事項の説明をされて帰られ、毎回ドツと疲れる。
・産後や子どもが小さいうちは、外出自体が大変なため、保健センターやサロンに行くことが億劫になっている。家庭訪問やネットでできることなどを増やすと市のサービス利用の機会が増えてありがたいと思う。など

■医療費・教育費・経済的支援等／保育所等にかかる費用

・医療費軽減や保育料負担軽減全てに所得制限があり、子ども達にかかる負担まで差別されるのは大変不公平。
・学費での貯蓄で先が見えないので東京で先進的に始まった高校の学費免除や大学の学費免除の制度の検討を札幌でも行って欲しい。
・保育料2人目無料を長子が在園中か否かに関わらず実施して欲しかった。 など

《参考》自由意見欄に記載があった意見・要望の分類

順位	意見・要望の種類・分野	該当数
1	医療費・教育費・交通費等の経済的な支援・減税、これらの所得制限緩和・撤廃	726
2	保育園・幼稚園・こども園にかかる費用	263
3	保育園・幼稚園・こども園入園の容易可・整備・職員増、待機児童の解消	261
4	屋内型の遊び場の整備等	259
5	職場・社会の子育て・子育て世帯への配慮・意識改善（産育休・短時間勤務等）	228
6	一時預かり（病児・病後児保育以外）	165
7	相談（窓口、保健師・行政等の対応、検診）	125
8	親・子が病気時の託児（一時保育・病児・病後児保育）	123
9	子育て支援等に関する情報	118
10	物品・物品購入の支援（ゴミ袋、オムツ、米、牛乳、その他）	108
11	子育てサロン	73
12	産後ケア・産後ケア事業	62
13	学童保育（児童クラブ、民間児童育成会、児童館）	55
14	保育士・幼稚園教諭・児童会館職員等の待遇改善・スキルアップ	48
15	公園等屋外の遊び場の整備、遊び場全般	47
16	延長保育、土日祝日・長期休暇時の保育等	44
17	小児科・医療機関の充実、受診・予約の容易化等	44
18	バリアフリー化（公共空間・交通機関等）	42
19	子連れで行ける店舗・場所の普及・情報提供	39
20	医療的ケア児、障がい・発達障がい	34

■屋内型の遊び場の整備等

・子どもを連れて遊びに行ける大きな屋内施設が近所に欲しい。夏場は公園などに行けるが、冬場、特に冬休みの間は外も寒く、家の中でずっとテレビを見るしかなく、困る。
・体育館等がある大きな室内の遊び場を増やして欲しい。年齢が上がると、狭いスペースだけでは赤ちゃんに怪我をさせてしまいそうで怖い。など

■一時預かり、病児・病後児保育等

・一時保育を預けやすくして欲しい。場所を増やす、ネットで予約できるようにする、価格を安くするなど。
・病児保育、日曜祝日の預け先、長期休暇中の預け先が少ない。日祝が繁忙な職種だが、休みを取るしかない。
・病後児保育施設が少な過ぎる。どうしても利用したい時ですら満員。
・急な病気の場合でも、できるだけ簡単に預けることができる場所があったらいい。預けるまでの手続き、事前登録、予約等が手間取りすぎて無理に感じる。 など